

## 拒絶理由通知書

特許出願の番号	特願2001-015590
起案日	平成15年 4月28日
特許庁審査官	池 渕 立 8831 4R00
特許出願人代理人	稲垣 清 様
適用条文	第29条第1項、第29条第2項

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

## 理 由

1. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において、頒布された下記 of 刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明であるから、特許法第29条第1項第3号に該当し、特許を受けることができない。
2. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記 of 刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

## 記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

- ・理由：1
- ・請求項：1
- ・引用文献番号：1
- ・備考

引用文献1の段落【0009】の記載に注意。被覆ワイヤーをツール4に挿通させたまま、洗浄槽7において超音波を与えて該ツールを洗浄する洗浄方法が記載されている。上記ツールは本願発明のキャピラリに相当し、上記被覆ワイヤーは洗浄時もツール内にあるので洗浄用ワイヤーに相当する。

- ・理由：2
- ・請求項：2
- ・引用文献番号：1、2、3、4
- ・備考

引用文献2には、ボンディングツールの先端部を摺動部材と摺動させてクリーニングを行うことが記載されている。

引用文献3、4はいずれも洗浄槽を備えたワイヤボンディング装置が記載されている。

引用文献1に記載の発明において、洗浄層による洗浄の前工程としてツールの研磨をする工程を付加することは引用文献2の記載に基づいて当業者が容易になし得たことである。

- ・理由：2
- ・請求項：3
- ・引用文献番号：1、2、3、4
- ・備考

研磨工程をマニュアル操作で行うことは格別困難を要することとは認められない。

- ・理由：2
- 請求項：4
- ・引用文献番号：1、2、3、4
- ・備考

引用文献を示すまでもなく研磨加工の際に研磨面を回転することは周知の技術である。引用文献2に記載の発明は、摺動部材とツールの溝を前後動して研磨するものであるが、洗浄すべき箇所が外部に露出しているものであれば、研磨における周知技術である研磨面の回転によって研磨することは当業者が容易に想到し得たことである。

- ・理由：2
- ・請求項：5
- ・引用文献番号：1、2
- ・備考

引用文献1に記載の装置において、ツールを研磨する研磨面を備えるものとすることは、引用文献2の記載に基づいて当業者が容易になし得たことである。

この拒絶理由通知書中で指摘した請求項以外の請求項に係る発明については、現時点では、拒絶の理由を発見しない。拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

#### 引用文献等一覧

1. 特開平05-211195号公報
2. 特開平08-264584号公報

発送番号 148472

発送日 平成15年 5月 1日 3 / 3

3. 特開平07-321143号公報

4. ~~実願平6-110819号 (実開平7-321143号) のマイクロフィルム~~

ム 実願昭60-28830 (実開昭61-144644)

府確認 5/9

<補正等の示唆>

洗浄用ワイヤについて、通常ボンディングに用いられるワイヤとの違いを明確にすれば、引用文献との相違が明確になる。

なお、上記の補正等の示唆は法律的效果を生じさせるものではなく、拒絶理由を解消するための一案である。明細書及び図面をどのように補正するかは出願人が決定すべきものである。

#### 先行技術文献調査結果の記録

- ・調査した分野 IPC第7版 H01L21/60, 301
- ・先行技術文献 特開昭63-228632号公報

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

この拒絶理由通知の内容に関する問い合わせ先

審査第三部電子素材加工 審査官 池淵 立

電話 03-3581-1101 内線3469